

# ひかりのこ

12月園便り

聖ミエル幼稚園  
2017年11月17日

月主題：喜んで

## 『家族の行事』

私には、中学校の教員の夫と、三人の子どもがいます。長男は今年結婚をし、来年には初孫が生まれる予定です。長女は市内で一人暮らしをはじめましたが、土日には、居心地の良い我が家に帰ってきます。次男は、大学3年生。まだあと3年、学生生活が続きます。

私はずっと中学校の教員として働きながら子育てをしてきましたので、日々の生活は、6時ぎりぎりまで学校で仕事をし、どうしても終わらない仕事は持ち帰り、子どもを保育園に迎えに行くと、家に着いたらご飯を作って食べさせて、お風呂に入れて寝させる、という慌ただしい生活をしていました。

でも行事は別。家族の年中行事は、とても大切にしていました。家族5人の誕生日、結婚記念日、季節の行事。

お正月は必ず私が手作りのおせちを作りました。夫がお年玉を子どもたちに渡す時は、みんなで正座をし、夫の「そもそもお年玉とは、お小遣いをもらうというのではなく、新しい年を迎え、年を一ついただくという意味があるのだ…」という講釈がしばらく続きます。子どもたちは神妙な顔つきで正座をしてそれを聞いていたものです。

節分は、3部構成になっていて、1部は家の外に炒った豆をまき、2部はお父さん鬼に豆をぶつけて戦い、3部は居間の階段の上からお菓子をたくさんまいて、それを親も子も真剣勝負で拾い楽しみました。

3月のひな祭り、5月の子どもの日、どれもご馳走を作ってお祝いしたものです。

そして12月のクリスマス。子どもが小学生ぐらいの時には、壁に新しい靴下を25枚吊るして、一つ一つにお菓子を入れて、アドベントカレンダーを飾ったこともあります。長男が22日生まれなので、だいたいお誕生日とクリスマスのお祝いを合同で23日の祝日に行っていました。24日は平日のことも多いのですが、慌てて学校の仕事を終えて、子どもたちを迎えに行くと、ミカエル教会

へ直行していました。夫とは教会で合流し、あの温かな、ろうそくの礼拝に参列したものです。

毎年迎える同じ形の行事を、家族は心から楽しんでできました。子どもが大きくなっても、これらの行事には、みんなが我が家に集まってきます。今でも仲の良い家族です。

皆さんも「我が家ならではの」の行事を楽しんでください。そして12月24日は、どうぞミカエル教会の礼拝にご家族でご参加ください。

園長 渡部 良子

## キリスト教保育

### 「クリスマスに向けて」

毎年この時期になると、サッポロファクトリーのアトリウムに、巨大なクリスマスツリーが設置されます。私も見るのを楽しみにしています。聞くところでは、約4万個のLED電球が使われるそうです。今までは色の違う電球を使っていましたが、LEDのおかげで、1つの電球で色を変えることができるようになったことも、このツリーの美しさの秘密かもしれません。

一つひとつの電球は小さな光ですが、それが4万も集まると圧倒的な光の塊になることに驚きます。そして、一つの小さな光が大きな光の一部として輝いているのは、私たちの国や社会、家族の姿を表しているようにも見えます。全体は、必ず部分から成っているのですが、常に問題になるのは、全体を構成するそれぞれの部分が、ちゃんと認められ、尊ばれているのか、ということです。社会の中で、家族の中で、見えなくされている部分はないだろうか。クリスマスはいつも、そのことを私たちに問いかけています。

イエス様は、日の当たらない場所に追いやられている人々に光をあて、舞台裏にたたずむ人を表舞台へと導きます。誰もが自分の人生の主人公になれるように、力を与えます。そんなイエス様の誕生を、今年も心を込めて待ち望み、お祝いしましょう。

チャプレン 司祭 下澤 昌